

竹牀花簾坐蕭間 好是儂家銷夏灣 誰道屏風無九疊 彩雲飛作洞庭山

【読み】

竹牀 花簾（かたん）に坐して蕭間（しょうかん）たり 好し是れ 儂家（わがや）の銷夏灣（しょうかかん）
誰（た）れか道（い）わん 屏風に九疊（きゅうじょう）無しと 彩雲 飛びて洞庭山（どうていざん）を作
（な）す

【意味】

竹の寝台に花模様の敷物を敷き、ひっそりと涼やかな気分で腰を下ろす。まことに心地よい――まるでわが家は「銷夏灣」のような避暑の地だ。誰が言っただろう、屏風に九重の山は描かれていないなど？ 空に浮かぶ彩雲が、そのまま洞庭山をなしているではないか。

*竹牀：竹で作ったベッド *花簾：花模様のたかむしろ *蕭間：物静かで閑寂なさま *銷夏灣：呉王などの風流人が訪れた伝説的な避暑地 *九疊：重なる山のような起伏の比喩 *洞庭山：洞庭湖に浮かぶ山（実際には君山など）。景勝地として詩にしばしば詠まれる。 *枕流橋：橋の名前。おそらく江南地方の避暑勝地にある橋。 *口号：即興で口ずさんだ詩

【出典】枕流橋避暑口号（朱日藩・明）

枕流橋（ちんりゅうきょう）にて避暑し、口号（こうこう）す